

令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金研究

**強度行動障害者支援に関する効果的な情報収集と
関係者による情報共有、支援効果の評価方法の
開発のための研究**

令和 2 年度実施調査結果（速報）

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園

強度行動障害者支援に関する効果的な情報収集と関係者による情報共有、支援効果の評価方法の開発のための研究（2年計画1年目）

《目的》

強度行動障害者の支援現場で行われている障害特性の把握、行動の記録、一貫性のある支援を行うために、支援現場でPDCAサイクルを回しやすくする共通のツール、具体的にはICF（国際生活機能分類）やICT（情報通信技術）活用の検討を行うことを目的とする。

《方法》

調査①：先行研究調査（令和2年7月～）

調査内容：データベースによる文献検索、検討委員からの情報収集により、本研究の参考となる先行研究を収集した。

調査②：事業所へのヒアリング調査（検討委員から推薦があった強度行動障害者支援の実績がある事業所）（令和2年10月19日～12月10日）

調査内容：日常の支援のために使用している記録のツールと活用の方法、職員間の情報共有の方法と課題などを把握した。

《結果》

■調査①

- ・J-stageの検索結果：「強度行動障害」のみ 111件 「強度行動障害」×「記録」 32件 「強度行動障害」×「アセスメント」 30件
「強度行動障害」×「ICF」 4件 「強度行動障害」×「ICT」 4件
- ・ICFについては、アセスメントにICFシートを用いることで多職種連携と情報共有を円滑にした事例を把握した。
- ・ICTについては、行動の記録のためのスキャッター・プロットをベースに開発されたアプリや、タブレットを支援に活用した事例等を把握した。

■調査② 表 ヒアリング調査結果（事業所で使用している記録ツールの状況と課題）

ツール	ツールのフォーマット	課題
①アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者基礎データ ・日課表 ・特性確認シート ・支援計画 	事業所ごとにフォーマットが異なるアセスメント項目が多く、支援者の経験や知識などによって捉え方に差が出る可能性がある 特性確認のための項目が、課題抽出に偏る傾向がある
②日常の記録	<ul style="list-style-type: none"> ・日誌 ・バイタルチェック ・作業実施状況 ・排便、食事、睡眠等 	支援者間での情報共有、引き継ぎに難しさがある（特に入所施設） 日々の業務のなかで記録を取ることが負担になっている場合がある 記録を取ることが支援につながらず、負担感につながっている可能性がある 上司や仲間からの評価が得られず、モチベーションにつながらない。
③臨時の記録	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の記録 ・ABC分析 ・スキャッタープロット 	日常の記録に加えて取るため、記録が煩雑になる 支援をしながら記録を取ることが難しい 細かく記録を取っても、分析にまで至らない

《考察》

- 調査結果より、記録・分析の際にICTを活用した実践事例はほとんどみられていないため、今後ICTを活用した実践の提案とともに試行による検証が必要である。
- 支援現場において、行動の分析を要する場合は臨時的に様式を作成するが、記入・分析とも労力が大きく、時間が十分に取れていない現状がある。
- 個々の見えにくい部分を含めて利用者の全体像を把握しやすくするため、ICF等を活用した本人の特性を理解するための情報の整理が必要と考えられた。

《次年度の取り組み》

- ①ICFの活用による包括的な情報の整理、②observations（東京都や鳥取県で実施されている、ABAの理論をベースとして観察結果を数値で蓄積していくためのICTツール）による効果的な記録の収集・分析・共有、を取り入れたPDCAサイクルを行うためのパッケージを取りまとめる
あわせて、記録について必要なフォーマットや支援体制などについて事業所で確認をするための「自己点検チェックリスト」を取りまとめる

Observations

- ・鳥取大学・井上雅彦研究室が開発した、知的障害や発達障害のある人の行動上の困難を解決・支援していくための支援者用記録アプリ
- ・支援者が定義した行動を日常的に記録し、グラフ化することで支援の効果をモニターすることが可能
- ・Android(アンドロイド機器用)とiOS(iPhone, iPad用)の2つのOS版を各OSの配布サイトからダウンロードし、スマートフォンやタブレットなどのデバイスで利用可能
- ・記録者は観察時間や標的行動などを設定し、行動の出現に合わせてカテゴリーをタップすることで記録される
- ・入力された行動観察データは即時にグラフ化して表示させることが可能
- ・データは各デバイス内に格納蓄積され、必要に応じてcsv形式でメール送信可能なため、パソコンなどでのデータの編集加工が可能

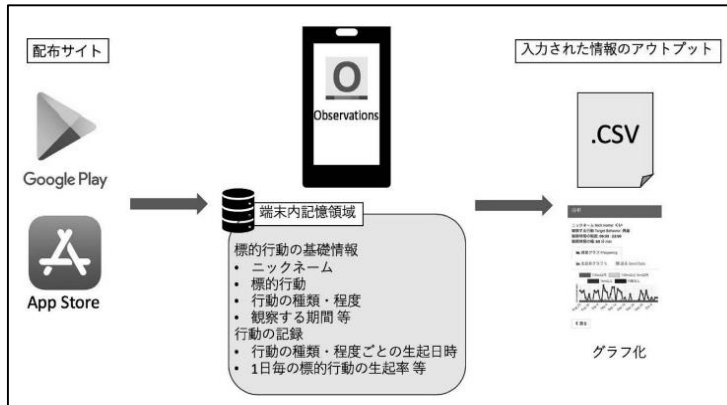


図1 Observationsの概要図

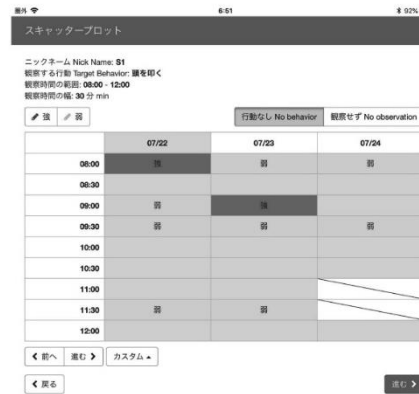


図2 入力画面

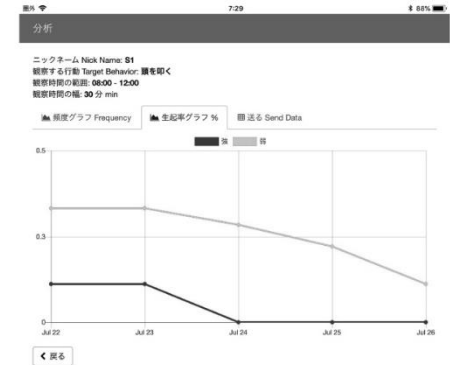


図3 分析画面

パッケージ(PDCAサイクル)のイメージ

